

2024年度(令和6年)自己評価結果報告書

学校法人今村学園
幼保連携型認定こども園
いまむらこどもえん
小規模保育園neccoきたその
小規模保育園neccoたかつき

園の概要

本園は1933年～2014年度まで82年間現在地で学校法人今村学園 高槻幼稚園として、保育・教育を進め、園舎全面改築を経て2015年4月より「幼保連携型認定こども園いまむらこどもえん」として再発足した。園の理念のもと、乳児は育児担当保育により、保育者との愛着関係を結び子どもの毎日の生活の安定と安心を大切にしている。幼児については自然に触れ、様々な感覚を使って直接体験すること、物事を敏感に感じ取ること、表現することを通し「自分に命があること、それは何物にも代えがたい大切なこと。」ということを実感できるようにと考えている。またお互いの存在を尊重し仲間と共に様々なものやことを分かち合い、共に育ち合い、喜びあうことを大切にしている。いまむらこどもえんの他、2020年4月に小規模保育園neccoきたその、2022年4月小規模保育園neccoたかつきが開園し、0歳児から2歳児、各22名の保育を進めている。

<本園の理念>

乳幼児期の保育・教育は、小学校の予備ではありません。

教えるのではなく育てるのです。

適切な養護を加え、伸び伸びとした生活を与えること、

無理のない躰け方によって良い習慣を体得させ、人格教育の素地を作ります。

将来に渡り、社会の中で子どもがその時々に分らしく幸せに生きることができるよう、愛情をもって目の前の子どもの存在そのものを受け止め、理解しようとする。潜在的に持っている個性を生き生きと引き出しながら、子どもたちが平和や自然、環境を守り他の人々や生き物と共によりよく生きるための心や行動を模索できるよう、それぞれの子どもをエンパワーする。(子ども自身がこうありたい、そうしたいと願うことが出来るよう援助する)

<本園の保育・教育目標> **生きること・学ぶことの根っこを育てる。**

今、ここにいるという存在を十分認められ、愛されていることを実感し、自分を信じる心、人を信じる心、人を愛する心(根っこ)が十分育ち、安心して自分らしく存在することが出来るよう援助するならば、自分の命も他者の命も等しく大切であるという自覚を持つ人間となると考える。

<めざす子ども像> **いのちを大切に子ども**

人は一人で生きてゆくことが出来ない。『私は私』であると同時に『私は私たち』でもある。自らの命の大切さを実感する経験をする中で、自分のためだけでなく、全ての命の大切さを知り、色々なものを分け合って共に喜びあう心を持つ人間の萌芽を育てたい。

<本年度の重点的な目標・計画>

- ①各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る
- ②保護者間、保護者と職員との連携強化、質の向上を図る。
- ③園庭整備・植栽、田畠・里山活動の拠点整備などを中心に各所の環境を整え、自然に触れる機会の質の向上を図る。
- ④幼児異年齢ホームクラス運営上の研究・環境の整備・進化。
- ⑤保護者間のコミュニティ醸成、交流の促進
- ⑥防犯・防災・安全対策強化、周知

<評価項目別の達成及び課題状況>

評価項目	達成状況及び課題・今後の取り組み
①各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る	<p>・今年度は乳児部門、幼児部門、小規模保育園部門の合同の会議の他、乳児・幼児クラス間の保育者の現場交流を実施した。(1~2週間単位で担任を交替する)改めて、0歳から5歳の 子どもの育ちの道筋を理解する試みであり、実際に保育に入ることによって様々な年齢の子ども理解に努めた。</p> <p>→さらに相互理解を深め、ガイドラインの作成を含め、具体的な方法で0~5歳の一貫した保育・教育の醸成に努めたい。</p> <p>・食育部門は子どもの喫食について随時食事を共にしたり、栄養素についてのレクチャーや展示をし、子どもや保護者の食に対する理解を得た。</p> <p>→現在は給食の試食会やレシピの公開などを進めているが、安全で楽しい食事の時間となるよう、家庭への支援も行っていく。</p>
②保護者間、保護者と職員との連携強化、質の向上を図る	<p>・保護者会組織が一旦ピリオドを打って10年経ち、保護者の方々の中から有志企画が上がってきた。園が後援という立場で全面協力し、バザーや絵本市、手作りグッズの講習会などが実施され、好評を得た。また、園主催では、『いまむらファミリーの集い』として、各種ワークショップやレクチャー、給食試食会などを通し、保育内容の理解と保護者同士の繋がりを生むことができた。</p> <p>・毎日の保育のドキュメンテーション、メールでの発信など、より分かり易く保育や子ども理解に繋がるように方法を変え実施した。随時アンケートを取り、保護者の意見をもとに改善に努めた</p> <p>→無理なく、お互いに思いを話し合いながら、子どもを真ん中に楽しい活動ができるよう保護者の意見などを参考に、協力して実施して行く。</p>
③園庭整備・植栽、田畠・里山活動の拠点整備などを中心に各所の環境を整え、自然に触れる機会の質の向上を図る	<p>・乳児、幼児共に、散歩、外遊び、里山活動、栽培など、身体を動かし、深く感じることでできる活動に努め、子どもたちの『感じる心』を育ち合いの中で育むことに注力した。栽培については獣害や酷暑などにより収穫量が落ちたが、自然との共存についてまた、栽培や食べ物の大切さなど、新たな学びを得る、貴重な機会となった。</p> <p>→引き続き、焦らず園庭や田畠など拠点の整備に努めたい。栽培については保育者自身が、さらに季節を感じる身体や自然に関する知識の獲得に努める必要がある</p>

評価項目	達成状況及び課題・今後の取り組み
④幼児異年齢ホームクラス運営上の研究環境の整備・進化。	<p>・4年目となった異年齢ホームクラスでの暮らしは、子どもたちそれぞれの自由な意見やアイデアを安心して表出することが出来るよう配慮しながら活動を進めてきた。子どもたちの繋がりも強くなり、と相手の気持ちを感じ、行動することができるようになっている。クラス間や各年齢別活動の様子は、子どもたちによる報告会で随時共有された。園庭での遊びや園舎内での遊びなど子どもの興味を集約する形で全体で楽しむことができるよう『遊びプロジェクト』メンバー中心に実施した。</p> <p>→クラスでの活動が多様に、又活発になり、個性も際立ってきている。あるクラスの取り組みが他のクラスの良い刺激になったり、他の子どもたちを巻き込んだり、共に活動を企画するなどの交流が生まれるよう、保育者間の連携をさらに強くする必要があると考える。</p>
⑤保護者間のコミュニティ醸成、交流の促進	<p>・毎年何か決まった活動をするために、保護者を招集するのではなく、子どもを真ん中にして緩やかに集まることにより、必要なことが見えてくるとい過程を大切にしていこうという流れができてきている。</p> <p>→今後も、義務ではなく、思わず動いてしまうといったお互いの良いところや強みを生かした活動を支援して行きたい。</p>
⑥防犯・防災・安全対策強化、周知	<p>・各種災害について、日時や方法を変えながら避難訓練を行い、子どもや職員の防災意識を高めることができた。アクシデントやその後のケアについては迅速に対応した。安全対策の強化、行政へ公園等の環境改善をお願いするなど、積極的に動いた。職員全員への周知は即時に行うこと、情報を常に共有することを心掛けた。</p> <p>→過度に防止するのではなく、しかし安全を第一に子どもたちや保護者の皆さんが安心して通園できるよう、違った角度からの研修等をさらに充実させる。</p>

<今後重点的に取り組む目標・計画>

- ①ミドルリーダーの連携を深め『チームいまむら』として各部門の連携を強化し、子どもの人権に配慮した保育内容の充実を図る。
- ②各プロジェクトチームを中心に0歳から5歳の育ちを繋げ、一貫した保育・教育内容『いまむら・がいでらいん』作成に着手する。
- ③保育者の自然に対する感度を高め、子どもや保護者と共に自然に触れる活動の質の向上を図る。
- ④保護者間、保護者と職員との連携強化、コミュニティ醸成、交流の促進。

<施設評価委員による評価、ご意見>

■保育者の自己評価では、業務遂行能力9項目で、総じて「できていない」と感じている方が多いことに少し驚きました。1・2年目の方ならやむを得ないかと思えます。しかし、保育を運営するにあたって、7年目~の方の「できていない92%」というのは、経験を積めば積むほど次の課題がみえるのだと思いますが、それに自分自身が追い付いていないということだと思えます。また、安全管理能力は経験を積めばある程度は気をつけなければならない点もわかると思うのですが、いずれも「できていない69%」でした。特に安全面は、いのちにかかわることですので、研修時間の確保、充実とともに、園内の安全確保体制をより整えていただくことが重要だと思えます。

<施設評価委員による評価、ご意見> つづき

- 園としてめざす保育を展開するにはチームワークが大切です。「できていない」が、3年目～が「23%」に対し、7年目～の「69%」は、保育者の方が経験を積むほど、チームワークのために自分が職責を果たせていないと感じられておられるように思います。役割意識の項目にも同じような傾向が見られます。経験を積んだ方の意見も聞いて、反映していただけたらと思います。
- 「食事を作るプロセス、調理をする人の姿に触れることができる」が「はい3名」「いいえ4名」でした。食育スタッフの研修はあるのでしょうか。他園、食育の先進園などの見学等、この項目については、他施設の見学も大事ではと思いました。
- 保護者の皆さんはお忙しいとは思いますが、ここまで丁寧に文章を書いて下さって、感激しました。それは、いまむらぐえんの保育への熱い想いととも、厳しい批判はよりよい保育をとの期待からだと思えます。厳しい意見は、ほぼ昨年も出されていた意見だと思えます。保育料が高い、布おむつ、写真撮影の件など、保護者の皆さんのご理解を得られるよう、保育者の方の日々の一言一言も大事かと思えますので、チームワークでご理解が得られるよう、また、文章だけでなく、日々のコミュニケーションをよろしく願います。
- 総じて異年齢保育に協力的で理解もいただいているものと感じました。
- 気になることを述べておられる保護者の方にとっては、ご自身が保育園、幼稚園で体験したことのない環境であるので不安に思っておられるのではないかと感じています。そのように思われている保護者に対して、園の方針や子どもの日々の園での過ごし方を伝える方法を改善いただければ不安は解消されるのかと思えました。卒園生から異年齢保育についての意見を聞いて在園生の保護者に伝える機会があってもいいかと思えました。
- コロナ禍が過ぎ、保護者の方も参加できるイベント、ボランティア活動が活発に行われている様子を拝見して、素晴らしいと思えました。このような活動を通じて保護者に対し、いまむらぐえんが伝えたいマインドを伝える機会にもなりますし、参加者は園の理解者、味方になってくれます。次回開催時は前回より一人でも参加してもらえるようになればいいですね。
- 今の時代経験の浅い先生に対して、ベテランの先生が「少し言いすぎかなあ…」と思うくらいアドバイスしないと若い世代の心に響かないような気がします。指導に当たられるベテランの先生も戸惑われるかと思いますが、世代にあったご指導、アドバイスを期待します。

<財務状況>

監査法人の監査を受け妥当であると認められた。